

2013 年 1 月 13 日

INC5 ラテンアメリカ・カリブ海グループ (GRULC) 地域会合 谷洋一 発言

おはようございます。本日皆様に、日本の水俣被害者の現状と提案されている条約名についてお話するために、皆様と一緒できることは私の喜びです。

私は、日本の水俣病協働センターの谷洋一と申します。私の仕事は、水俣病の被害者とその家族を支援することであり、40 年以上行っています。皆様は悲劇がまだ続いていることを知って、驚かれるかもしれません。実際に、数ヶ月前、6 万 5,000 人以上の被害者が水俣病救済のための申請を行ないました。

多くの水俣被害者は、提案されている水俣条約という名前に反対しています。私はまた、水俣市議会が、条約は違う名前にするよう求めているということをお伝えしたいと思います。

水俣被害者は、いくつかの理由でその名前に反対しています。多くの真の被害者が認定を拒絶されてきました。水俣病の包括的な健康調査は決して行なわれませんでした。現在、水銀を含んだ 150 万立方メートルのヘドロがまだ埋め立てられたままです。水銀に関連する不正義が水俣を苦しめている時に、どのようにして私たちは、良心をとがめることなく、水俣条約という名前を受け入れることができるのでしょうか？

この条約は、汚染された場所に対応するには非常に弱いものです。それは被害者の補償と環境の修復に関する重要な規定を無視しています。それなのに水俣条約と呼ぶのはなんとも皮肉なことです。私たちは単純に、生物多様性条約や砂漠化防止条約の例にならい、それを水銀条約と命名することができるでしょう。

最後に私は、強い条約にするために、健康面に関する第 20 条 bis をより強くするための GRULAC (ラテンアメリカ・カリブ海グループ) の提案を強く支持することを表明したいと思います。

私たちは、GRULAC の皆様がこの条約に違う名前を選ぶよう要請いたします。私たちは、**水銀条約**という命名を検討していただきたく思います。

ご清聴ありがとうございました。私はどのようなご質問にも喜んでお答えいたします。